

■草津市の障害者福祉の動向について

議事に関するご質問・回答(資料1)

統計等による概況	ご質問	回答
1.障害者の数	<p>・「コロナ禍」の影響はあるのでしょうか。(例えば精神障害者など) ・数字の推移を記載しているが、その理由としての考察等が記載されていない。正解とはならないが、一定の解説が必要と考えます。</p>	<p>・令和2年度の精神障害者保健福祉手帳所持者数は77名増となっておりますが、対前年度増加率は1.08となっております。令和元年度以前と比較しても大きな変動は見られませんでした。このことから、コロナ禍ではありますが、例年どおりの増加率となっております。影響があったかは判断できないところであります。 また、身体障害者手帳・療育手帳についても同様に、大きな変動は見られません。</p> <p>・考察等につきましては、来年度以降に記載するよう改善に努めます。</p>
2.身体障害者の現状	<p>・②の*1は何を示しているのでしょうか？ ・表では「じん臓」、文章では「腎臓」となっています。統一してはいかがでしょうか？</p>	<p>・記載誤りであるため、修正いたします。 ・標記については腎臓に統一します。</p>
5.年齢階層別手帳所持者数	<p>療育手帳保持者に高齢者が少ないということは、60代で亡くなってしまふ方が多いのでしょうか。</p>	<p>療育手帳所持者の60代の方が多く亡くなっているかどうか等について具体的には不明ですが、療育手帳制度が始まったのは昭和48年となっております。現在の60代の方が若年層の頃には制度としてなかったことから、現在の若年層の手帳取得に比べて低くなっていることが要因のうち一つであると考えております。</p>
6.障害支援区分の認定	<p>令和元年度から令和2年度にかけて区分5、6の知的の人数が減ったのはなぜでしょうか。それに伴い不都合は生じていないでしょうか。</p>	<p>令和2年度の審査会の結果を確認したところ、区分5、6から下位の区分に変更されているケースはありませんでした。このことから、減少については、死亡や転出による自然な減少であると考えます。また、この減少により利用者に対して不都合が生じるとは考えておりません。</p>
7.医療・保健の概況	<p>育成医療の新規申請が少なかった理由はあるのですか。</p>	<p>各年度によって新規申請件数に多少のばらつきがあり、令和2年度については新規申請が少なかった年度であったと考えております。また育成医療全体の件数が年々減少していますので、理由について検証してまいります。</p>
障害等のある幼児・児童・生徒の推移等		
1.就学前児童の状況	<p>障害児保育<対比 %>及び障害児幼稚園<対比 %>は、ともに私立に比して公立が各段に高くなっています。この理由は何なのでしょう？また、今後、この点に関して、どのようにしていこうと考えていられるのでしょうか？</p>	<p>公立私立を問わず、インクルーシブ教育の理念に立って必要な教育・保育を提供しています。しかしながら、特に私立施設においては、保育士等の不足(障害の程度によって必要となる保育士の数が異なる)により必要な人員が確保できないなどの課題があり、受け入れできないケースがあります。 公立施設については公的な施設としての役割・責務があることから、受け入れ体制を整えて対応しております。今後も、どの施設においても障害児の受け入れが行えるように努めてまいります。</p>
2.学校教育の状況	<p>草津市の人口増加が今後どのようにしていくのか、それに伴い、特別支援学級や特別支援学校のあり方について、検討が必要かと思うが、草津市としての見解を教えてください。</p>	<p>特別支援学校については、草津市の児童生徒が通う草津養護学校は県内でも最も児童生徒数も多く、施設面においても十分な教育環境ではないとの声もあり、市としても、現状を把握し、国・県に新設分離の要望をしております。 特別支援学級については、年々、支援を要する児童生徒が増加傾向にあることから、市としても、適切な支援が行われるよう教職員への研修を充実させるとともに、特別支援コーディネーターの専任化を国・県に要望しております。</p>